



**カミキリムシと菩提樹
(前編)**

長嶺胃腸科内科外科医院
長嶺 信夫

1. 菩提樹が枯れてしまった

あの「お釈迦さまの菩提樹」が枯れてしまった。2011年11月のことである。

菩提樹協会会員のM氏から「菩提樹の様子がおかしい」との連絡である。半信半疑で「4、5日前も菩提樹苑に行ってきた。葉が落ちているだけだろう」と答えたものの、気になって早速菩提樹の様子を見に行った。

糸満市米須にある沖縄菩提樹苑には2004年5月30日に植樹した「お釈迦さまの菩提樹」が3本植えられている。

2011年夏の台風は強烈で、菩提樹苑に防風林として植樹していた「オオバアカテツ」の直径15cmの幹が5本途中から折れるほどであった。菩提樹も台風の都度、落葉し、枝先はまるで竹箒のようになる。それでも、しばらくすると枝先に新芽がでる。菩提樹は元来成育が旺盛な樹なのだが、それだけに強風には弱く、簡単に枝が折れ、落葉する。

2. 強烈な台風襲来

その菩提樹が瀕死の重症である。度重なる台風に菩提樹も持ちこたえることができなかったのか。

ちなみに、昨年(2011年)沖縄県に襲来した台風の記録を見てみると、発生した台風21個のうち7個が沖縄に接近している。

沖縄菩提樹苑に大きな被害を与えた台風は、5月22日に発生した台風2号：最大風速55m、防風林のオオバアカテツの太い幹が折れ、

6月22日に発生した台風5号：24日から25日にかけて先島地方を通過、

7月28日に発生した台風9号：最大風速

55m、沖縄本島を40時間以上も暴風雨に巻き込み、

9月13日発生の台風15号：南大東島近海で1回転し、沖縄本島にも長時間強風をもたらした。

これほどの台風が沖縄県に襲来したのは、およそ10年ぶりのことである。

3. 菩提樹の被害

菩提樹の被害状況は時系列で菩提樹の写真をみるとよくわかる。

写真1は2009年7月12日の菩提樹の様子である。樹は大きく育ち、枝を広げている。その年の11月にダライ・ラマ法王14世を菩提樹苑にお迎えした。

写真2は法王を迎えるにあたって、台風対策として菩提樹を防風ネットで保護している写真である。

これほど大きく育つと、台風の都度実施するネット張りには、大きな枝も剪定しなければならぬ。かなりの作業量である。そのため、法王訪問後の2年間は台風が来ても防風ネットを張らず、特に肥料も与えずに放置していた。それは、植物専門家と称する糸満市在住の植木職人が「あまり過保護にしないで、沖縄の風土に慣らすように」と助言していたので、その助言を受け入れたためでもあった。

幸いにも、2010年は大きな台風はなかった。しかし、2011年は先に記載したように激しい台風が繰り返して襲来したのである。

台風後の菩提樹の写真を供覧しよう。写真3は



写真1. 最も勢いがある時の菩提樹 (2009年7月12日撮影)

台風2号が沖縄に接近した2011年5月28日午後撮影したもので、写真4は台風が通過した直後、5月29日に撮影した写真である。菩提樹は一夜にして竹箒のような無残な姿に変わっている。

菩提樹はその後の台風5、9、15号の来襲のたびに傷めつけられ、落葉しては枝先に新芽を出すことを繰り返していた。

4. 原因究明

枯れ死寸前の菩提樹の状態に11月24日、菩提樹協会会員や関係者を非常招集した。現地での被害状況の調査および被害対策の協議のためである。

3本の菩提樹のうち、中央前方の樹はまだ枝先に葉をつけているが、後方の左右2本には葉が見られない。これまで、前方の樹の枝葉を見て、一時的な落葉だと勘違いしていたのである。後方2本の幹を観察したところ、樹皮に割れ目がめだち、確かに弱っている。

このような事態になった原因はいったい何なのか？会員は口々に自分の考えや意見を披露した。

想定された原因は①. 台風の強風と塩害 ②. 肥料の問題 ③. 外部からの除草剤などの散布、いわゆる破壊工作である。

①については当然考えられた。海岸に近い上、強風や塩害をさける遮蔽物もない。オオバアカテツの防風林の太い幹も折れた。場所柄、塩害も相当ある。地上の塩を除去するため、構内の表土を入れ替えることを提案する会員さえいた。

②に関しては、11月21日に筆者の通報でかけつけた、前に過保護にしないようにと筆者に助言した植木職人が「菩提樹の根元に化学肥料がおいてあるのを見て、直ちに除去した」と言い、「樹が枯れたのは、その化学肥料のせいだ」と発言した。しかし、その肥料は当日、これも筆者の通報でかけつけた菩提樹協会の会員が経営する病院の職員が重症の菩提樹を見て、仰天し、化学肥料を撒いたものであった。この職員が肥料を撒くのは極めて例外的なことである。また筆者は化学肥料を好まず、一度も使用したことはない。また筆者は1～2週間ごとに菩提樹苑

を訪問しているが、化学肥料が撒かれているのを見たこともない。菩提樹が植えられている構内は施肥されていて、鍵を持っている人以外堀に囲まれた構内に入れないのである。

なかには、「肥料のやりすぎ」という会員もいた。しかし菩提樹苑を管理している筆者はダライ・ラマ法王を迎えた2009年秋以降の2年間肥料は一切使用していない。むしろ、2年前



写真2. 台風対策時の菩提樹 (2009年10月11日撮影)



写真3. 台風2号被害直前の菩提樹 (2011年5月28日撮影)



写真4. 台風2号被害直後の菩提樹 (2011年5月29日撮影)

までは肥培管理を徹底していたため、写真1のように立派な樹に成長していたのだが、この2年間肥培管理をおこたったことが樹勢を衰えさせ、枯れ死させた原因になったと反省し、急いで有機肥料の施肥を施したほどである。

③に関しては万一の可能性はあるが、構内に薬物をいれていた容器が見つからないうえ、菩提樹の周囲に生えているシバに異常は見られないので否定的であった。

いずれにしても、容易ならざる事態である。2011年12月3日の臨時理事会で、とりあえず菩提樹の周りの塀を2mから4mの高さまでかさ上げすることが決定された。

5. アショカ王の故事にならい牛乳を注ぐ

それにしても、これほど大きくなった樹が台風だけで立ち木のまま枯れるというのは納得がいかない。

構内の御影石の塀が完成し、落成式を挙げてから6年目にあたる12月18日の日曜日、スーパーで新鮮な牛乳を買い、菩提樹苑にむかう。「アショカ王が伐採させ、寸断し、焼却させた菩提樹が煙や炎がまだ静まらないうちに2本の樹が生えだした異変をみて、自らの行いを後悔し、香乳を残りの根に注ぎかけたところ、翌朝になると樹は元のように生えていた」という故事にならい、菩提樹に牛乳を注ぐためである。遊び心ではあるが、妻・尚子は樹根に神妙に牛乳を注ぎ、2人で笑いながら、樹勢回復の祈りを捧げた(写真5)。

ところが、枯れかかった菩提樹の樹皮をはがしたところ、樹皮の下に数ミリから数センチまで、大きさが異なるゴマダラカミキリの幼虫が沢山出てきた(写真6,7)。樹根の樹皮下にもいる。

菩提樹にカミキリムシの被害、2011年11月24日に非常招集で菩提樹苑に関係者が集まったとき、菩提樹にゴマダラカミキリの成虫がとまっているのをみかけたものの、誰一人カミキリムシが菩提樹を枯れ死させた犯人とは気付かなかったのである。

(12月号へつづく。)



写真5. 菩提樹の樹根に牛乳を注ぐ妻・尚子 (2011年12月18日撮影)



写真6. カミキリムシ被害の樹幹、幼虫が見える (2011年12月18日撮影)



写真7. 妻・尚子の手掌上のカミキリムシ幼虫 (2011年12月18日撮影)